

学校名 (生徒数)	長浜市立虎姫中学校 (161人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：滋賀県長浜市五村 12 番地

電話番号：0749-73-3302

【研究の目的， 研究内容】

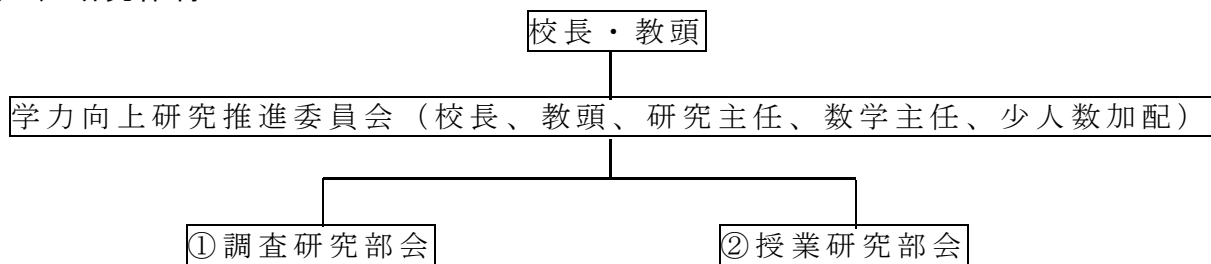
(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

- ① 数量関係を文字式で表す問題に対する、苦手意識が大きいことがわかった。
- ② グラフから、与えられた時間における道のりを読み取る問題で、グラフが示している内容を読み取ることに課題が見られた。
- ③ 中央値の意味を忘れていたりなど、統計用語の不定着が見られた。

(2) 課題解決に向けた改善策

- ① なぜを問う発問により、説明する力を伸ばす。
- ② 自力解決の思考過程が分かるようにノートをつくる。
- ③ 小グループ活動による意見交流から、よりよい考えを見つける。
- ④ 小テストの継続的实施により、基礎学力を高める。
- ⑤ 家庭学習の評価と指導により学習習慣を確立する。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

- ・ 4月22日（水）第1回研究推進委員会「研究の主題、内容と方法、分担」
- ・ 5月13日（水）第2回研究推進委員会「研究の仮説、具体的な方法」
- ・ 6月23日（火）第1回授業研究会 3年数学科「式の展開と因数分解」
- ・ 7月9日（木）第2回授業研究会 1年数学科「文字の式」
- ・ 10月9日（金）第3回授業研究会 2年数学科「一次関数」
- ・ 10月20日（火）学力向上アプローチ事業にかかる学校訪問
- ・ 1月13日（水）第3回研究推進委員会「評価問題の結果と今年度のまとめ」
- ・ 2月24日（水）第4回研究推進委員会「今年度のまとめ」

(5) 具体的な研究内容・方法， 研究を進める上での工夫点等

① なぜを問う発問により、説明する力を伸ばす。

自分で答えを見いだすことができるように、自力解決を促す学習課題の与え方を工夫する。

単に答えを導くだけでなく「なぜ」を問うことで、根拠を明らかにしながら問題を解こうとできるようにする。「なぜこの式になるのか」や「式が表していることは何なのか」「比例定数が表しているものは何なのか」など、考えを深



めさせる発問を積極的に取り入れていく。

このように、説明する機会を増やし、経験を重ね、評価し、説明することに対する自信をつけさせるようにする。

②思考過程が分かるノートをつくり、筋道を明らかにした論理的思考を促す。

ノートは常に見開きにして使い、2ページを1時間の学習に当てる。

学習の流れに沿って、左ページに「学習課題」「自力解決」「友だちの考え」、右ページに「まとめ」「適用問題（評価問題）」「振り返り」を書く。

「振り返り」では、本時を通して「わかったこと、確認できたこと」と「できるようになったこと」を書く。

板書とノートが同じになるように、教師も生徒と同じノートを使い、指導計画に板書計画を立てる。

③小グループ活動による意見交流から、よりよい考えを見つける。

2人ペアや4人グループでの意見交流の場を設け、発言の場を多くする。そのことにより、主体的な学習を促す。

友だちの意見や多くの考えを聞くことで、よりよい考えを選んだり、新しい発見や考えが深まるようにしたりする。



④小テストの継続的实施により、基礎学力を高める。

計算や定着させたい基本的な内容を中心に小テストを手作りし、授業開始時に実施する。繰り返し学び直しができるよう問題を工夫し、教師が授業後採点する。生徒の定着状況を把握し、必要に応じて個別指導を行う。

⑤家庭学習の評価と指導により、学習習慣を確立する。

市販の問題集を購入させ、定期的に家庭学習課題を出す。期日に提出させ、チェックし、「思考過程がわかりやすく書いてある」「ユニークな考えが示してある」などのよい取組については、授業中に生徒に紹介する。

内容が不十分な生徒については、昼休みや放課後に個別指導を行う。

【研究成果と課題】

(1) 研究成果

虎姫小学校の授業研究の成果と、虎姫中学校の授業研究の成果が合わさって、

①思考過程が分かるノートが書けるようになった。

②理由を添えながら、筋道を立てて自分の考えを発表できるようになった。虎姫中学校数学科における学力向上アプローチ事業の成果として、

③今年度の全国学力・学習状況調査の結果で、数学A・Bともに一定の成果が見られた。数学Bでの記述式問題の正答率でも一定の成果が見られた。アプローチ事業を通して、『付けたい力を明確にした評価問題を作成し、授業改善の方法を研究して取り組んだ』成果と考えられる。

(2) 課題等

計算力、暗算力に課題が見られる。引き算 $15 - 7$ を間違えたり、 $1 / 4$ を素早く 0.25 に直せなかったり、小数や分数を扱うと思考が停止したりする姿が見られる。

また、全国学力・学習状況調査でも、数学Bでの短答式の問題に課題があり、数学的直感力や活用力を育む努力をしていきたい。計算力、暗算力を向上させるために、小中が連携して取り組んでいくことが大切だと考えられる。